

食物アレルギー表示制度

令和7年2月 食品表示課

食物アレルギー表示に関する変遷

平成13年3月

制度創設

- ・食品衛生法に基づく厚生労働省令を改正
- ・特定原材料(義務) 5品目(乳、卵、小麦、そば、落花生)
- ・特定原材料に準ずるもの(推奨) 19品目を通知で規定

平成16年12月

特定原材料に準ずるものに「バナナ」を追加 《義務5品目・推奨20品目》

平成20年6月

特定原材料に準ずるものであった「えび」、「かに」を特定原材料に移行
《義務7品目・推奨18品目》

平成21年9月

消費者庁設置

平成25年9月

特定原材料に準ずるものに「カシューナッツ」、「ゴマ」を追加
《義務7品目・推奨20品目》

平成27年4月

食品表示法施行

令和元年9月

特定原材料に準ずるものに「アーモンド」を追加 《義務7品目・推奨21品目》

令和5年3月

特定原材料に準ずるものであった「くるみ」を特定原材料に移行
《義務8品目・推奨20品目》

令和6年3月

特定原材料に準ずるものに「マカダミアナッツ」を追加、「まつたけ」を削除
《義務8品目・推奨20品目》

食物の摂取による「アレルギー」とは

- 食物アレルギーとは、食物を摂取した際、身体が食物に含まれるたんぱく質等（アレルゲン）を異物として認識し、自分の体を過剰に防御することで不利益な症状を起こすことをいいます。
- 健康危害の発生を防止する観点から、概ね3年毎に実施している全国のアレルギーを専門とする医師を対象とした全国実態調査における症例数や重篤度を踏まえ、特定原材料等を定めています。容器包装された加工食品について、特定原材料を含む旨の表示を義務付けています。

【主な食物アレルギーの症状】

軽い症状：かゆみ、じんましん、唇や臉の腫れ、嘔吐、喘鳴

重篤な症状：意識障害、血圧低下等のアナフィラキシーショック

特定原材料等

特定原材料等の名称		理由	表示
食品表示基準 (特定原材料)	えび、かに、くるみ、小麦、そば、卵、乳、落花生（ピーナッツ）	特に発症数、重篤度から勘案して表示する必要性の高いもの	義務
消費者庁 次長通知 (特定原材料に 準ずるもの)	アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、マカダミアナッツ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン	症例数や重篤な症状を呈する者の数が継続して相当数みられるが、特定原材料に比べると少ないもの	推奨 (任意)

表示例

（アレルゲンの表示は、原則、個別表示。例外として、一括表示も可。）

【個別に表示する場合】

原材料名：じゃがいも（国産）、にんじん、ハム（卵・豚肉を含む）、マヨネーズ（卵・大豆を含む）、たんぱく加水分解物（牛肉・さけ・さば・ゼラチンを含む）／調味料（アミノ酸等）

【一括して表示する場合】

原材料名：じゃがいも（国産）、にんじん、ハム、マヨネーズ、たんぱく加水分解物／調味料（アミノ酸等）、（一部に卵・豚肉・大豆・牛肉・さけ・さば・ゼラチンを含む）

令和6年度「即時型食物アレルギーによる
健康被害の全国実態調査」の概要

調査方法

- 食物アレルギー表示制度開始当初からの調査（これまでおおむね3年ごとに実施）における協力医師、調査対象、調査方法全てを踏襲し、継続性を重視。
- 協力医師はアレルギーを専門とする医師（日本アレルギー学会指導医及び専門医、並びに日本小児アレルギー学会会員）の中で調査の趣旨に賛同を得られた者(772名)。
- 調査対象は“食物を摂取後60分以内に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者”とし、食物経口負荷試験や経口免疫療法（OIT）により誘発された症状は調査対象としていない。
※調査項目：名前（イニシャル）、性別、年齢、原因抗原の摂取食物種類(自由記載)、原因抗原、臨床症状（皮膚、呼吸器、粘膜、消化器、全身から選択方式と自由記載方式の併用）等
- 調査期間は令和5年1月から12月で、3か月毎による郵送又は電子メールによる報告を受けた。

調査対象

合計6,562例

※なお、報告のあった症例のうち、原因物質が特定されていない353例、原因物質が食物以外の96例（アニサキス75例、ダニ12例等）、性別・年齢・転帰等記載内容に不備があった80例を除外し、6,033例を解析対象とした。

年齢分布

0歳が1,418例(23.5%)で最も多く、1・2歳群が1,347例、3-6歳群が1,722例、7-17歳群が1,228例、18歳以上群318例であった。中央値は3歳であった。全体の男女比は、男性3,457例/女性2,576例で男性が多い傾向であった。

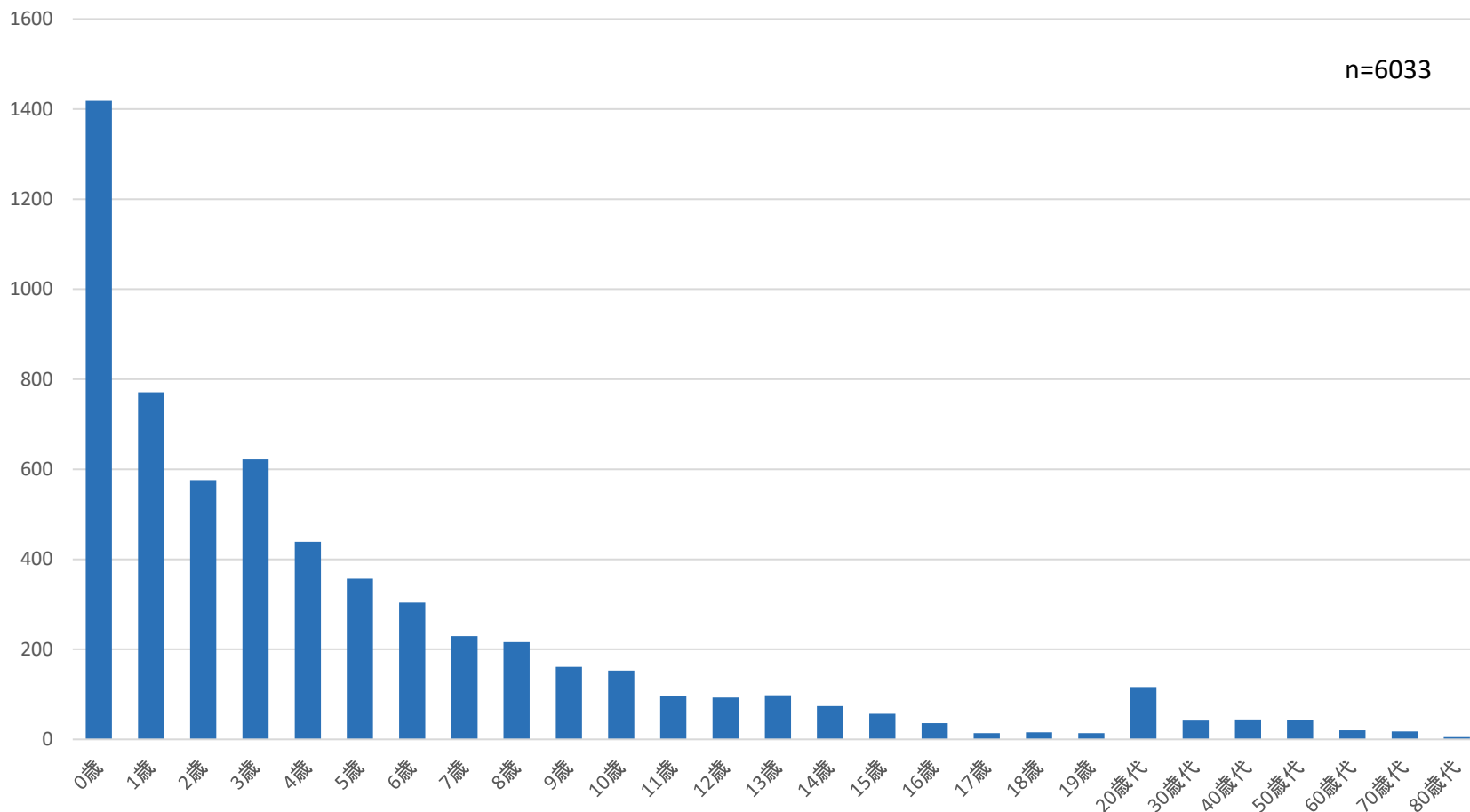


図1：年齢分布

※20歳以上は10代区切りで集計した結果である。

原因食物

上位3品目は、鶏卵1,609例(26.7%)、くるみ916例(15.2%)、乳807例(13.4%)、であった。前回の調査では、木の実類が初めて第3位となったが、今回はさらに増加し第2位となった(前回13.5%、第3位)。木の実類の内訳は、くるみが916例で最も多く、以下、カシューナッツ279例、マカダミアナッツ69例であった。

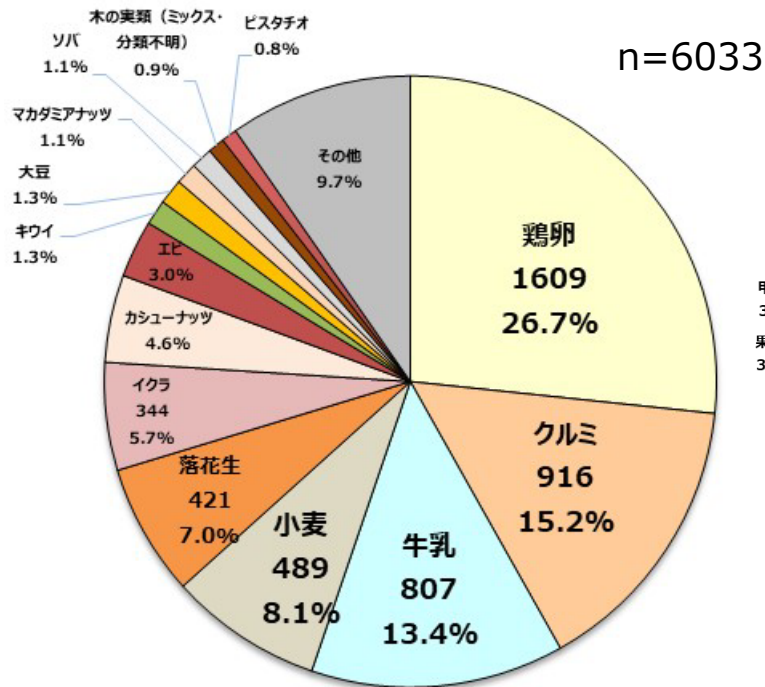
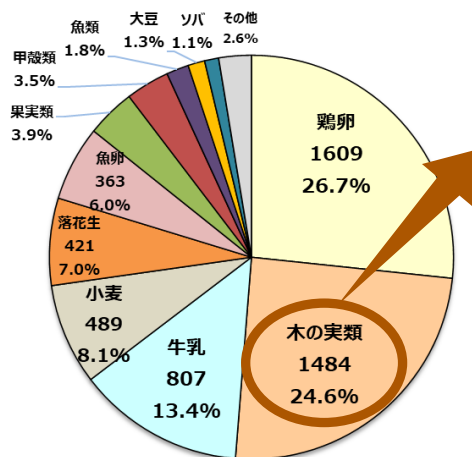


図2：原因食物の割合

(品目別)



(類別)

表1：木の実類の内訳

種類	n	全体に対する%
くるみ	916	15.2%
カシューナッツ	279	4.6%
マカダミアナッツ	69	1.1%
ピスタチオ	50	0.8%
アーモンド	46	0.8%
ペカンナッツ	35	0.6%
ヘーゼルナッツ	27	0.4%
ココナッツ	5	0.1%
松の実	3	0.0%
クリ	1	0.0%
ミックス・分類不明	53	0.9%
合計	1,484	

妥当性の検証

即時型症例6,033例において、特定原材料8品目は74.9%(4,521例)、特定原材料に準ずるもの20品目※を含めると92.9%(5,607例)を占めた。

※「マカダミアナッツ」追加前、「まつたけ」削除前の20品目で集計

年齢別

年齢別の原因食物は、加齢とともに変化し、1・2歳群では鶏卵、くるみ、牛乳、3-6歳群はくるみ、落花生、いくら、7-17歳群はくるみ、牛乳、鶏卵、18歳以上群は小麦、えび、大豆の順であった。くるみは1・2歳群で2位(14.6%)、3-6歳群で1位(28.3%)、7-17歳群で1位(17.2%)といずれも上位2品目に入っていた。

表2：年齢群別原因食物

	0歳 (1,418)	1-2歳 (1,347)	3-6歳 (1,722)	7-17歳 (1,228)	≥18歳 (318)
1	鶏卵 60.6%	鶏卵 33.7%	くるみ 28.3%	くるみ 17.2%	小麦 21.1%
2	牛乳 21.4%	くるみ 14.6%	落花生 12.0%	牛乳 13.8%	えび 16.7%
3	小麦 13.6%	牛乳 12.9%	いくら 9.4%	鶏卵 10.7%	大豆 8.2%
4		いくら 8.8%	鶏卵 8.9%	落花生 9.9%	
5		落花生 5.7%	牛乳 8.6%	小麦 8.1%	
6		小麦 5.2%	カシューナッツ 8.4%	えび 6.9%	
7				カシューナッツ 5.2%	
小計	95.6%	81.0%	75.7%	71.8%	45.9%

注釈：各年齢群で5%以上の原因食物を示した。また、小計は各年齢群で表記されている原因食物の頻度の集計である。原因食物の%は小数第2位を四捨五入したものであるため、その和は小計と差異を生じる。

初発

初発例の原因食物は、加齢とともに変化し、1・2歳群では鶏卵、くるみ、いくら、3-6歳群はくるみ、いくら、落花生、7-17歳群はくるみ、えび、いくら、18歳以上群は小麦、えび、大豆の順であった。くるみは1・2歳群で2位(19.6%)、3-6歳群で1位(34.5%)、7-17歳群で1位(18.7%)といずれも上位2品目に入っていた。

表3：年齢群別原因食物（初発）

	0歳 (1,328)	1-2歳 (901)	3-6歳 (1,097)	7-17歳 (491)	≥18歳 (164)
1	鶏卵 61.8%	鶏卵 28.7%	くるみ 34.5%	くるみ 18.7%	小麦 18.9%
2	牛乳 20.9%	くるみ 19.6%	いくら 14.1%	えび 12.4%	えび 16.5%
3	小麦 13.1%	いくら 13.0%	落花生 11.6%	いくら 7.9%	大豆 9.1%
4		落花生 7.4%	カシューナッツ 9.2%	カシューナッツ 6.3%	
5		カシューナッツ 6.5%			
小計	95.8%	75.4%	69.4%	45.4%	44.5%

注釈：各年齢群で5%以上の原因食物を示した。また、小計は各年齢群で表記されている原因食物の頻度の集計である。原因食物の%は小数第2位を四捨五入したものであるため、その和は小計と差異を生じる。

ショック症例

解析対象6,033例のうち、意識がなくなる等の重篤な症例での上位3品目は、鶏卵136例(23.2%)、牛乳95例(16.2%)、くるみ86例(14.7%)であった。前回の調査では、くるみは第5位であったが、今回はさらに増加し第3位となった(前回8.8%)。木の実類の内訳は、くるみが86例で最も多く、以下、カシューナッツ37例、マカダミアナッツ13例であった。

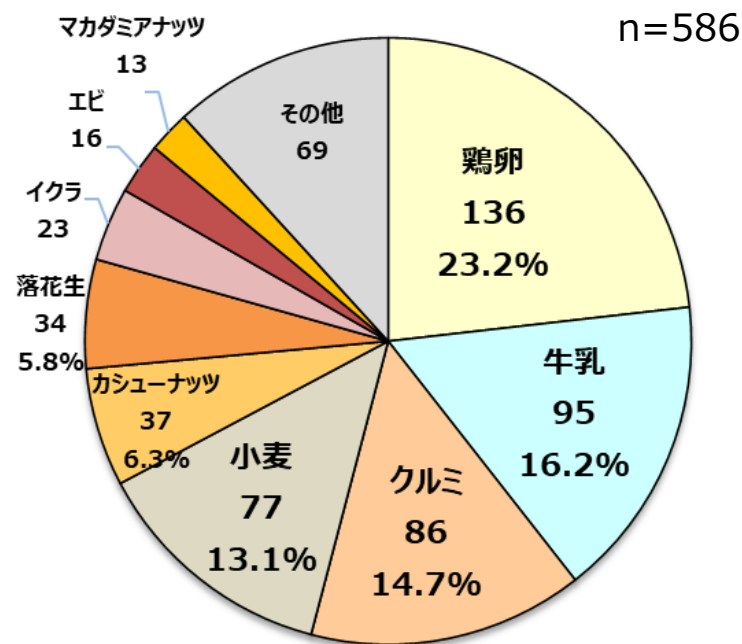


図3：原因食物の割合

表4：木の実類の内訳

種類	n	全体に対する%
くるみ	86	14.7%
カシューナッツ	37	6.3%
マカダミアナッツ	13	2.2%
分類不明	7	1.2%
ピスタチオ	7	1.2%
アーモンド	4	0.7%
ペカンナッツ	2	0.3%
松の実	2	0.3%
ヘーゼルナッツ	1	0.2%
合計	159	

妥当性の検証

ショック症例586例において、特定原材料8品目は76.3%(447例)、特定原材料に準ずるもの20品目※を含めて93.3%(547例)を占めた。

※「マカダミアナッツ」追加及び「まつたけ」削除前の20品目で集計

考察及び結論

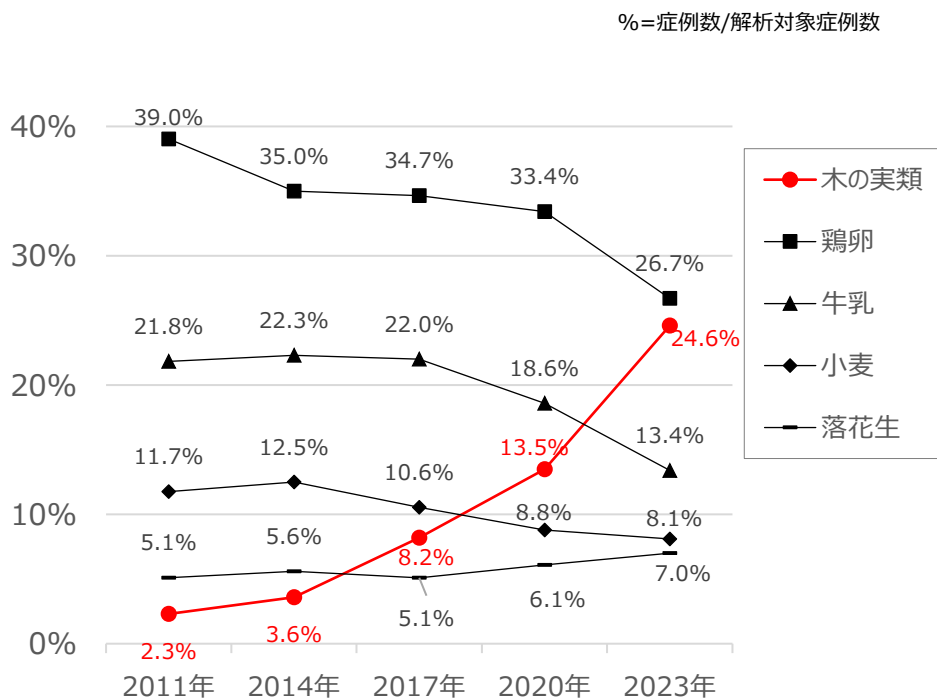


図4：上位品目の症例数比率の推移

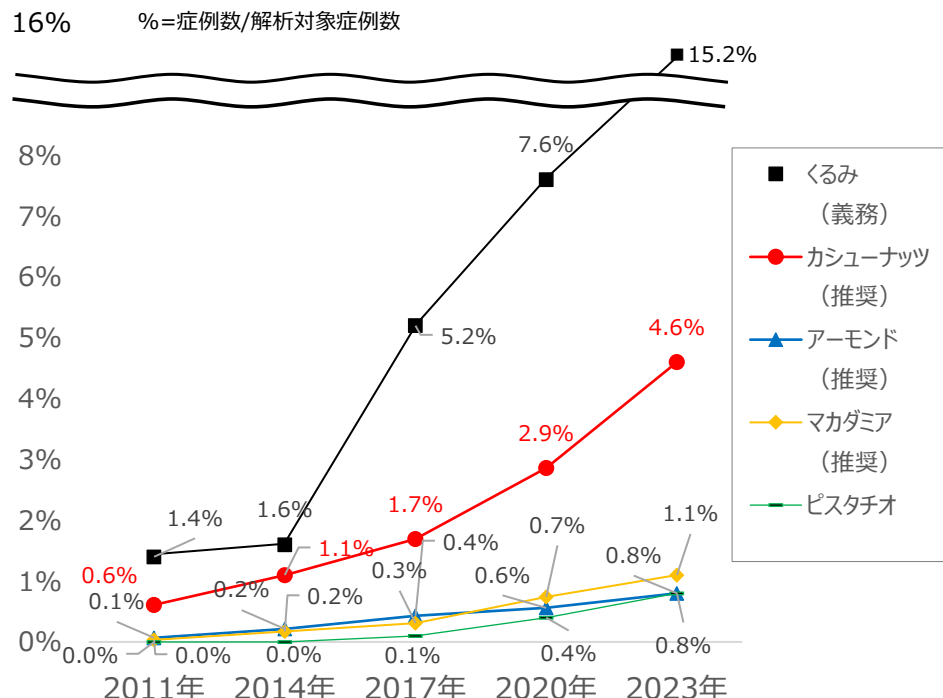


図5：木の実類の症例数比率の推移

1. 今回の調査件数は、6,033例であり前回（6,080例）と同程度であった。
2. 木の実類による即時型食物アレルギーは、2017年、2020年の調査に続き増加していることが明らかになった。
3. 木の実類の中でもくるみ及びカシューナッツによる症例数の増加が著しい。
4. 初発例の原因食物では、0歳群は鶏卵、牛乳、小麦の順であったが、1歳から17歳では、上位2位以内にくるみが入っており、上位5位以内にカシューナッツが入っていた。
5. マカダミアナッツ、ピスタチオ及びペカンナッツの増加率も前回調査から1.5倍以上であり、今後の推移を注意深く観察する必要がある。

全国実態調査の結果

○即時型症例数の推移

年度	上段：原因食物（症例数の順位）、中段：症例数、下段：調査年度における割合																			
平成24年度 解析対象 2,954件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	落花生 (4)	イクラ (5)	エビ (6)	ソバ (7)	キウイ (8)	くるみ (9)	大豆 (10)	バナナ (11)	ヤマ イモ (11)	カニ (13)	かじー ナツ (14)	モモ (14)	ゴマ (16)	サバ (17)	サケ (18)	イカ (18)	鶏肉 (20)
	1153	645	347	151	104	80	65	41	40	28	24	24	19	18	13	12	11	10	10	7
	39.0	21.8	11.7	5.1	3.5	2.7	2.2	1.4	1.4	0.9	0.8	0.8	0.6	0.6	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2
平成27年度 解析対象 4,644件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	落花生 (4)	イクラ (5)	エビ (6)	キウイ (7)	くるみ (8)	ソバ (9)	大豆 (10)	かじー ナツ (11)	バナナ (12)	カニ (13)	ヤマ イモ (14)	モモ (15)	リンゴ (16)	サバ (17)	ゴマ (17)	サケ (19)	アーモ ンド (20)
	1626	1034	581	260	180	134	95	74	71	55	50	37	35	33	27	25	19	19	15	14
	35.0	22.3	12.5	5.6	3.9	2.9	2.0	1.6	1.5	1.2	1.1	0.8	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3
平成30年度 解析対象 4,851件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	くるみ (4)	落花生 (5)	イクラ (6)	エビ (7)	ソバ (8)	かじー ナツ (9)	大豆 (10)	ちい ルーツ (11)	バナナ (12)	ゴマ (13)	モモ (14)	ヤマ イモ (15)	アーモ ンド (16)	カニ (17)	マカダミ アツツ (18)	サケ (19)	イカ (20)
	1681	1067	512	251	247	184	121	85	82	80	77	38	28	24	22	21	20	15	14	13
	34.7	22.0	10.6	5.2	5.1	3.8	2.5	1.8	1.7	1.6	1.6	0.8	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
令和3年度 解析対象 6,080件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	くるみ (4)	落花生 (5)	イクラ (6)	かじー ナツ (7)	エビ (8)	ちい ルーツ (9)	大豆 (10)	ソバ (11)	ヤマ イモ カニ (12)	マカダミ アツツ (13)	カニ (14)	アーモ ンド (15)	木の 実類※ (15)	ゴマ (17)	バナナ (18)	魚類 (19)	ピスタ チオ (20)
	2028	1131	533	463	370	300	174	152	87	79	69	48	45	42	34	34	33	29	28	22
	33.4	18.6	8.8	7.6	6.1	4.9	2.9	2.5	1.4	1.3	1.1	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4
令和6年度 解析対象 6,033件	鶏卵 (1)	くるみ (2)	牛乳 (3)	小麦 (4)	落花生 (5)	イクラ (6)	かじー ナツ (7)	エビ (8)	大豆 (9)	ちい ルーツ (10)	マカダミ アツツ (11)	ソバ (12)	木の 実類※ (13)	ピスタ チオ (14)	アーモ ンド (15)	モモ (16)	かじー ナツ (17)	ヤマ イモ カニ (18)	ヘーゼル ナツツ (19)	カニ・ ゴマ (20)
	1,609	916	807	489	421	344	279	183	81	80	69	68	53	50	46	37	35	31	27	25
	26.7	15.2	13.4	8.1	7.0	5.7	4.6	3.0	1.3	1.3	1.1	1.1	0.9	0.8	0.8	0.6	0.6	0.5	0.4	0.4

※分類は不明

全国実態調査の結果

○ショック症例数の推移

年度	上段：原因食物（症例数の順位）、中段：症例数、下段：調査年度における割合																		
平成24年度 解析対象 307件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	落花生 (4)	エビ (5)	イクラ (6)	ソバ (7)	バナナ (8)	加工ナッツ (8)	くるみ (10)	カニ (11)	大豆 (11)	キウイ (11)	リンゴ (11)	コメ (11)	サバ (11)	イカ (11)	15品目 (18)	
	77	66	64	20	14	12	11	5	5	4	2	2	2	2	2	2	2	1	
	25.1	21.5	20.8	6.5	4.6	3.9	3.6	1.6	1.6	1.3	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.3	
平成27年度 解析対象 489件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	落花生 (4)	エビ (5)	加工ナッツ (6)	イクラ (7)	キウイ (8)	くるみ (8)	ソバ (10)	カニ (11)	大豆 (12)	アーモンド (12)	サバ (14)	バナナ (14)	モモ (14)	ヤマモモ (14)	豚肉 (18)	27品目 (19)
	136	124	94	27	15	10	9	7	7	6	5	4	4	3	3	3	3	2	1
	27.8	25.4	19.2	5.5	3.1	2.0	1.8	1.4	1.4	1.2	1.0	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.4	0.2
平成30年度 解析対象 524件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	くるみ (4)	落花生 (5)	エビ (6)	加工ナッツ (7)	そば (8)	イクラ (9)	キウイ (10)	大豆 (11)	カカオ (12)	バナナ (13)	オオムギ (13)	ココナッツ (13)	ブリ (13)	マカダミアナッツ (13)	マグロ (13)	アーモンドを含む27品目 (19)
	125	118	87	42	38	18	15	14	12	8	5	3	2	2	2	2	2	2	1
	23.9	22.5	16.6	8.0	7.3	3.4	2.9	2.7	2.3	1.5	1.0	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2
令和3年度 解析対象 660件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	小麦 (3)	くるみ (4)	落花生 (5)	加工ナッツ (6)	イクラ (7)	エビ (8)	ソバ (9)	大豆 (9)	キウイ (11)	アーモンド (11)	ピスタチオ (13)	木の実類※ (13)	マカダミアナッツ (15)	ヤマモモ/ナガイモ (16)	ゴマ (16)	ペカンナッツ (18)	ホタテ (18)
	156	144	98	58	46	30	20	13	8	8	7	7	6	6	5	4	4	3	3
	23.6	21.8	14.8	8.8	7.0	4.5	3.0	2.0	1.2	1.2	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	0.6	0.6	0.5	0.5
令和6年度 解析対象 586件	鶏卵 (1)	牛乳 (2)	くるみ (3)	小麦 (4)	加工ナッツ (5)	落花生 (6)	イクラ (7)	エビ (8)	マカダミアナッツ (9)	大豆 (10)	ピスタチオ (10)	木の実類※ (10)	アーモンド (13)	リンゴ (13)	ソバ (15)	魚類※ (15)	キウイフルーツ・モモ・ヤマモモ・イカを含む6品目 (17)	ゴマ・オレンジ・豚肉・ゼラチンを含む22品目 (23)	
	136	95	86	77	37	34	23	16	13	7	7	7	4	4	3	3	2	1	
	23.2	16.2	14.7	13.1	6.3	5.8	3.9	2.7	2.2	1.2	1.2	1.2	0.7	0.7	0.5	0.5	0.3	0.2	

※分類は不明